

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101827		
法人名	株式会社 ライフセーバーコーポレーション		
事業所名	グループホーム ミントつくだ		
所在地	青森市中佃3丁目18-9		
自己評価作成日	平成28年8月30日	評価結果市町村受理日	平成28年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成28年10月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・月1回、音楽療法を開催し、専門的分析、助言をいただき、ケアに活かしている。 ・利用者様一人ひとりの能力に合わせたケアを行い、機能維持に努めている。 ・季節に合わせた風習や行事を利用者様一人ひとりと職員が一緒に取り組み、活気ある生活を送れるよう努めている。 ・年1回、夏祭りを開催し、利用者様、ご家族様、地域の方々が交流できる機会を設けている。 ・職場体験やボランティアの受け入れを通じて、認知症介護の啓発に努めている。 ・認知症ケア専門士有資格者を配置している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者が認知症ケア専門士でもあり、利用者の状態変化に応じた適切な支援を行うと共に、対外的に認知症予防・介護に係る情報の提供と啓発に努めている。</p> <p>ホーム便りである「ミントだより」を毎月発行し、町内の回覧板にて地域に配布しており、様々な情報を地域に提供・発信しながら、地域との関係を大事にしようとする強い姿勢が感じられる。</p> <p>また、キャリアパスに則り、職員の自主性を尊重しながら必要な指導・助言を加え、職員の育成に取り組んでおり、それがより良いサービス提供につながっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、廊下、休憩室等に掲示し、周知に努めている他、毎月開催するカンファレンスや勉強会等の折に話し合って共有化を図り、ケアに取り組んでいる。	地域密着型サービスの役割を反映させた独自の理念を定め、管理者及び職員は地域との交流等について理解している。理念はホーム内への掲示等を通して共有している他、管理者は具体的な介護提供場面を通して、職員にその意義を伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月のホーム便りを回覧板にて地域に配布し、ホームの日常や取り組みを理解していただけるよう取り組んでいる。また、年2回、近所のお宅を訪問し、直接、意見や要望を伺っている。	ホーム便りを毎月、回覧板で町内に配布し、ホームの理解を図っている。また、ホームの夏祭りは「ご近所祭り」として、地域住民との交流イベントとしている他、中学生のボランティアを受け入れる等、地域と共存する開かれたホーム運営を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月の介護保険及び認知症についての情報を掲載したホーム便りを、回覧板にて地域に配布している。また、実習生・ボランティアの受け入れの際は、事前にオリエンテーションを行い、プライバシー配慮に努めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの概要やサービスの種類について、理解を深めていただけるよう努めている。また、日々の様子やサービス評価を踏まえ、意見をいただく機会としている。	市職員や地域包括支援センター職員、地域代表(町会長 民生委員)、利用者代表、家族代表がメンバーとなり、2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、家族には全員に案内を出している。会議では、利用者の状況や行事等の報告の他、今後の予定やその他を議題に意見交換を行い、メンバーからも地域等の情報をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告書を提出し、ホームの現状を伝えている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加しており、市には資料や会議録を持参し、報告をしている。また、毎月発行するホーム便りを配布している他、必要に応じて、電話等により照会、確認等を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事例やマニュアルに沿って定期的に勉強会を開催する等し、全職員が身体拘束を行わないという姿勢でケアを提供している。	マニュアルの作成や研修への参加等により、職員は身体拘束の内容や弊害について理解を深めている。玄関は夜間以外施錠せず、利用者の外出傾向を察知した時は職員が付き添い、外出している。また、万が一の無断外出時に備えて、運営推進会議を通して協力を働きかけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事例やマニュアルに沿って定期的に勉強会を開催する等し、全職員が虐待に関する理解を深め、虐待を行わないケアを目指している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を企画し、全職員が制度に関する理解を深めている。また、必要と思われる利用者・家族には積極的に紹介し、必要であれば、相談・手続きを代行している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、十分に説明を行い、同意を得ている。また、退居時に関わる事項についても、入居時及び退居時に十分に説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居契約時に説明を行うと共に、ホーム内やホーム便りにて案内している。意見・要望があった際は全職員に周知し、検討する機会を設けている。	意見箱やアンケート用紙を置き、来訪時に、職員の態度や居室環境、その他について意見を書けるようにしている。毎月発行するホーム便りに苦情・相談申し出窓口を明示している他、毎月の月次報告により、利用者の様子をお知らせし、家族が意見を出しやすいように配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、個別面談を行うと共に、申し送りやカンファレンスの際に話し合いを行い、出された意見・提案は管理者会議の際に検討している。	月1回のカンファレンス時や毎日の申し送り時等、職員の意見を聞く機会を設けている。また、利用者と職員の馴染みの関係を保てるよう、勤務体制や異動等は職員の意見を聞き、職員間、上司と部下とのコミュニケーションを十分に図りながら、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	優秀な職員は給料をアップしたり、パートから常勤にする等、職員が向上心を持てるようにしている。また、個々の事情に合わせて労働時間を組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパスに則り、職員個々に学んでほしい事を定め、研修を受ける機会を設けている。また、エルダー・メンター制度を取り入れ、早期離職を防げるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会等で主催されている研修及び親睦会に参加する機会を設けている。地域包括支援センター・圏域のグループホームで開催している地域ケア会議に参加し、情報交換の機会を設けている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時から入居決定までの期間に数回の面談を行い、直接話をする機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時から入居決定までの期間に数回の面談を行い、直接話をする機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な限り対応を行うが、対応が困難なケースにおいては、サービスの種類に関わらず紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	申し送りやカンファレンス、勉強会等の折に、「敬う心」を踏まえた上で、「支え合う」ことについて話し合いを行い、職員全体で良い関係を築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の折に日々の様子を報告すると共に、毎月、月次報告にて様子をお知らせしている。また、定期的な面会や行事参加を依頼し、共に過ごせる機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に出かけられるよう支援している。電話、手紙での交流をはじめ、面会での交流を図れるよう支援している。	入居時のアセスメントや日々の会話、家族から情報をもらう等して、利用者の馴染みの関係を把握しており、電話のやりとりや馴染みだった場所への外出を通じて、懐かしさを感じ、これまで関わりのあった方との交流を継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングにソファを配置し、寛げるスペースを設けている。また、個々の状態に合わせ、利用者同士が支え合う場面の提供に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居当初より、サービス終了後も必要に応じて相談や支援を行える事を説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人のこれまでの生活や習慣の把握に努めると共に、できる限り多くの希望、意向を取り入れるよう努めている。	日常の会話や表情等から、利用者の思いや意向の把握に努めている。次第に把握が難しくなる傾向にあるものの、家族と会う機会や電話連絡する機会に尋ねたり、情報提供をしていただきながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネや家族から、生活歴や習慣、サービス利用の経過等、多くの情報をいただき、把握に努めている。また、家族の面会の折に情報をいただく等している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や関わりから、全職員が情報収集すると共に、情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎に担当を決め、利用者の状態把握に努めると共に、計画作成者と協力し、モニタリングしている。また、毎月カンファレンスを開催し、情報交換を図り、プラン立案につなげている。	カンファレンスの場で十分に話し合いの上、介護計画を作成している。また、実施期間に関わらず、利用者の身体状況の変化等があった時には随時見直しを行い、その際にはモニタリングを行うと共に、必要に応じて再アセスメントを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア記録の他、業務日誌等に記録を残し、情報を共有できるよう工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出支援をはじめ、受診の際は職員が付き添っている。また、必要に応じ、家族の送迎も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学校のボランティアや職場体験等を受け入れ、利用者との交流の場を設けている。年1回、夏祭りを開催し、利用者、家族、地域の方々が交流できる機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を基に、かかりつけ医での受診を継続できるよう支援している。	利用者や家族の希望する医療機関を受診できるように支援している他、状態に応じて、協力病院や往診の対応ができる医療機関の提案等、その人に合わせた支援も行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師による健康チェックを行うと共に、定期的に助言をいただいている。医療処置が必要となった時には、主治医見解の下で、医療保険による訪問看護を利用できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中から定期的に面会に出向き、本人の状態を把握して、ホームでの対応可能な状態を明確に伝え、今後の受け入れ体制を整えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期や看取りについて、家族に説明を行っている。また、早期より家族の意向を確認している。	重度化対応(看取り)指針とマニュアルが定められており、ホームの考え方と具体的な対応を明確にしている。利用者及び家族の意向を踏まえ、医療機関及び家族との連携を図りながら支援していく体制を整備している。また、状態変化時には常に利用者、家族の意向を確認し、随時、話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修の参加と伝達研修を行い、勉強の機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施している。また、運営推進会議において、地域協力への働きかけを行っている。ホームだよりも、ホームの体制と協力への働きかけについて、記事を記載している。	夜間も想定した具体的な避難誘導策を策定し、消防署からの指導もいただいている。災害時の対応として、ホームが立地する地域に起こり得る事を想定し、地域住民にいざという時の協力を働きかけている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	守秘義務・プライバシーについて定期的に勉強会を行い、全職員への周知に努めている。また、日々ケアの際の振り返りに努めている。	理念の「その人を大切にします」「その人を傷つけません」を実践し、一人ひとりの人格を尊重しながら、利用者の言動を否定や拒否しない対応をホーム全体で徹底している。また、理念で「プライバシーを守ります」も掲げ、実習生やボランティアを受け入れる際にも十分に説明している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状態に合わせ、本人が自分で選べるよう場面づくりを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活リズムはあるが、個々の状態に合わせることができるよう、時間に幅を持たせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは個々の状態に合わせ、本人が自分で選べるよう場面づくりを行っている。身だしなみはできる限り本人が行い、職員が注意し整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備の段階に参加していただいたり、敷地内でできた作物を使ったメニューを取り入れたり、季節行事に合わせたメニューを取り入れている。	献立は栄養士の資格のある職員が作成し、希望等を取り入れながら、メニューに工夫を凝らしている。また、食材の下拵えや茶碗拭き等、利用者のできる範囲で行っていただき、職員も利用者との会話を楽しみながら、一緒に食事時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食毎に記録を残し、状況を把握できるようにしている。本人の取状況に合わせてミキサー食にする等、食べやすい工夫を行っている。また、水分補給には個々の嗜好品も取り入れたり、形状を工夫して補給量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声がけや誘導、見守り、介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用い、個々の排泄パターンに合わせ、声がけや誘導を行っている。	排泄表により、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、個々の習慣を活かしながら、トイレでの排泄に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の確保や乳製品を召し上がっていただく等、自然排便を促せるようにしている。可能な限り、トイレ排泄を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	基本的に週2回の入浴を行っている。本人から希望があれば、その都度、対応している。	2ユニットで入浴の曜日を別々に設定し、時間帯や温度等、利用者の意向を取り入れながら、入浴を楽しめるように支援している。また、入浴を拒否する場合には、曜日を変えたり、時間をずらす等、工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	申し送りにより前夜の睡眠状態を把握し、その時の状況に合わせ、休養時間の調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の入れ物に保管し、処方箋はファイルして、全職員がいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせ、日常的に役割の提供を行っている。また、園芸や手芸等、入居前からの趣味を継続して行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣を散歩したり、外出行事を企画して、出かける機会を作っている。	利用者の楽しみや気分転換等につながるよう、天気の良い日に近隣を散歩したり、行事での外出機会を作っている。高齢化に伴い、本人からの要望は少なくなっているものの、日々の会話や家族が面会に来た時等に情報収集し、できる限り利用者の希望を取り入れた外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に合わせ、可能であれば所持していただいている。また、希望があれば、職員が付き添って買い物に出かけたり、外出行事の機会を設け、買い物の機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は常に利用できるよう配置している。手紙も個々の希望に合わせて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った装飾品や昔ながらの郷土品等を飾っている。	家庭的な雰囲気のソファやテーブル等を置き、利用者がゆったりと寛げる環境に配慮している。また、季節毎に飾り付けを行い、四季とその変化を感じることができるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを配置している。ホール以外にもテーブル・イスを配置し、馴染みの利用者同士で過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた馴染みの物を持ってきていただくようにしている。また、家具等の配置も、自宅と同じ配置を取り入れる等している。	家族にも馴染みの物の持ち込みを働きかけると共に、本人の暮らしぶり等から考えて相談をしながら、利用者が居心地良く過ごせるような居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーである。また、サービス計画に基づき、個々の状態に応じた工夫を行っている。		